

全国JOCジュニアオリンピックカップ

夏季水泳競技大会(水球競技)を観戦して

ローマオリンピック／東京オリンピック出場

日本水泳連盟 元水球委員長

高木 弘毅(日本大学出身・58クラブ)

今年(2023年)で87才になり、久し振りに生まれ故郷で、兄弟に会う機会があったので京都を訪れ用事を済ませて、京都アクアリーナで8月22日(火)～26日(土)第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会(水球競技)が開催されていたので24日午後の競技より26日最後の試合まで観戦させていただいた。24日会場に入った途端、笛と黄色い声、そして観客席より応援の声が鳴り響いたプールに目をやるとA区分の小学生のチームが熱戦を繰り広げていた。小さい子供でもオフェンス・ディフェンス共しっかり守ってやっているなど感心させられた。

◎ジュニア大会の運営は、次の様な要領で実施されている。

*年齢区分

1. A区分 12才以下の男女。ただし、中学生を除く。

(男子のみ、女子のみ、または男女混合可)

2. B区分 15才以下の男子。ただし、高校生を除く。

3. C区分 15才以下の女子。ただし、高校生を除く。

4. E区分 18才以下の女子。ただし、小学生、大学生を除く。

*参加資格

ブロックチーム	A区分	B区分	C区分	E区分
北海道・東北	2	2	1	1
関東	4	5	4	4
北信越	3	2	2	1
東海	2	2	1	1
近畿	2	2	2	2
中国	2	2	1	1
四国	1	1	1	1
九州	4	4	1	2
シード	3	3	2	2
大会開催地	1	1	1	1
合計	24	24	16	16
総合計	80チーム			

*競技方法

1. A・C区分 予選リーグ(4ブロック)

勝点3 負0 引分1 勝点多い 上位

予選上位2チームで決勝トーナメントを行う

競技時間 正味4分を1ピリオッド×2ピリオッド、2分休憩

決勝トーナメントは4分4ピリオッドで行う。

ゴール A区分 幅2m×高さ0.7m

ボール A区分ジュニア12才以下公認球

C区分ジュニア15才以下公認球

2. B・E区分 B区分6チーム、E区分4チームによる予選

(4ブロック、トーナメント方式)を行い、

1位が決勝トーナメント進出、敗者は2位決定

トーナメントに、計8チームで決勝トーナメント

競技時間 正味5分1ピリオド×4ピリオド、ピリオド間に

2分の休憩

ゴール 幅3m×高さ0.9m

ボール 一般女子公認球

3. 表彰

優勝チームには 優勝カップ(各区分ごと)

1位～3位チームには メダル(各区分ごと)

1位～4位チームには 賞状(各区分ごと)

最優秀選手 JOC杯(男女各1名)

ベストサーティーン 大会終了後決定する。

4. 試合数 122試合

5. 決勝トーナメント 最終4チーム 競技結果

1) A区分

順位	チーム名	点数(ピリオド点数)
優勝	千葉水球クラブ・千葉	4(0112)
2位	原田学園SMC・鹿児島	3(0102)
3位	京都踏水会水泳学園・京都	4(0202)
4位	豊中水球クラブ・大阪	2(0011)

2) B 区分

順位	チーム名	点数(ピリオド点数)
優勝	大垣市水球クラブ・岐阜	13 (3532)
2位	PISCINA・静岡	7 (1141)
3位	豊中水球クラブ・大阪	10 (3115)
4位	千葉水球クラブ・千葉	7 (2221)

3) C 区分

順位	チーム名	点数(ピリオド点数)
優勝	京都踏水会水泳学園・京都	11 (1433)
2位	トリトン兵庫・兵庫	6 (0321)
3位	富山スイミングパレス・富山	5 (1310)
4位	千葉水球クラブ・千葉	2 (0020)

4) E 区分

順位	チーム名	点数(ピリオド点数)
優勝	付属秀明八千代高校・千葉	13 (3154)
2位	京都府立鴨沂高校・京都	9 (3312)
3位	石川イーグルス・石川	9 (2421)
4位	白鵬女子高校・神奈川	8 (2321)

*最優秀選手 男子 池田蒼梧(大垣市水球クラブ)

*最優秀選手 女子 小林真穂(秀明大学附属秀明八千代高校)

*優秀選手 (ベストサーティーン)

A区分 13名・B区分 13名

C区分 13名・E区分 13名

以上の選手が選抜され終了した。

近年ジュニアを対象にした全国大会は「全国JOCジュニアオリンピックカップ大会」夏季大会は5日間京都・京都アクアリーナで開催され、春季大会は5日間千葉・千葉県国際総合水泳場で開催される。他の大会、「全日本ユース(U16)大会」(桃太郎カップ)は12月下旬4日間岡山・倉敷市屋内水泳センター・児島マリンプールで開催。「全日本ジュニア(U17)大会」(かしわざき潮風カップ)は3月下旬4日間新潟・県立柏崎アクアパークで開催されている。

その他の大会は全国大会に出場する為の地方予選会又は地方大会等である。

ジュニア大会の試合を観て多くの若い指導者が、熱心に頑張っている姿が見受けられた事は大変嬉しい事である。

若い指導者に特に望む事はジュニア達に非常に大切な「水球の基本」を厳しく指導してもらいたい事である。

「水球の基本」とは、泳ぐ・まき足・仰り足(出足)・ハンドリングであり、「ハンドリング」とは、ボールを掴むとき下から掬い上げ、出来るだけ上から掴まないようにする。上から掴んでいると試合中ボールにタックルされた時、ボールが水に沈み、アンダーウォーターで反則と判定されるので、自分の巻足を使って身体を浮かしてプレーする様にしてほしい。

水球競技は、野球・サッカー・バレーボール・バスケットボールの様なメジャー競技までにはまだまだ遠いが、水球競技を行う人口（底辺）を増やし将来ヨーロッパの様に皆から親しまれる様な競技になりたいものである。そして、今回選出された、最優秀選手・ベストサーティーンが将来日本の代表選手に選ばれ活躍してくれる事を期待してやまない。

追伸

2023年9月23日～10月8日 第19回アジア大会は、中国・広州で開催され、日本水球チームの成績は次の通りある。

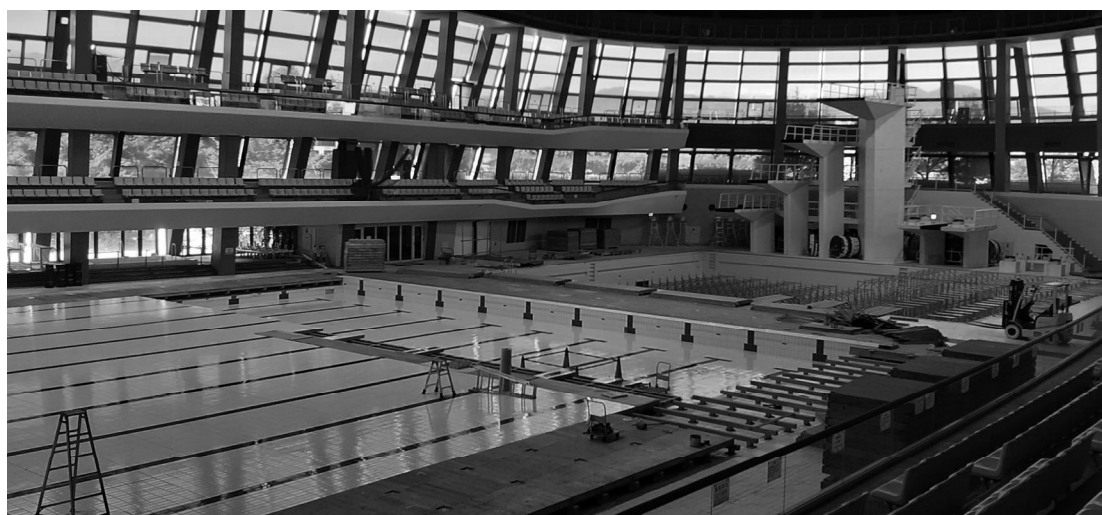
*女子日本チームは、中国チームに惜敗し、2位の銀メダル。

*男子日本チームは、中国チームに11対7で快勝し、金メダル。

日本 11 (1-0・4-1・4-4・2-2) 7 中国

男子は、来年開催されるパリオリンピック大会の出場権を得る。

パリオリンピック大会の活躍が期待される。



京都アクアリーナ(室内プール)